

ご卒業おめでとうございます！

いよいよ明日は卒業式ですね。それぞれに3年間を振り返っていることでしょう。この3年間に皆さんは、ホームルーム活動などさまざまな場面で、人権に関する学習を行ってきました。高校時代の“学び”が、これからの人生の“お守り”になることを願ってやみません。



「差別は私たちの世代で終わらせる！」

●2月17日の登校日に、学年集会で学んだ結婚差別の問題。結婚差別とは、被差別部落（と歴史的に言われていたところ）にルーツがあることを理由に、結婚が出来なかったり、結婚をめぐる激しく人権を侵害される状態を言います。

【差別をなくすために必要なこと／出来ること】皆さんの意見

- ・きちんとした教育、人権教育
- ・しっかりと学ぶ環境をつくること
- ・たくさんの人に知ってもらうこと
- ・身近な人に、正しい知識を伝えること
- ・現状や起こっていることを知ること
- ・親として家庭で子どもに教える
- ・まず自分たちが、差別をしない
- ・他人事にしないこと
- ・子どもを教育する親が、差別をしない子に育てる
- ・差別について勉強をし、理解して、差別によって苦しんでいる人がいることを知ること
- ・小学校や中学校、高校、そして社会人になっても、人権について話をすべきだなと思いました。一緒にいたいと心から思った人と、差別で引き離されるのはつらいことだし、きっと自分を憎みたくもなると思うし、今そうになっている人がいるかもしれない。そんな人を救うには、理解してもらうまで話し続けることだと思います。その結果、幸せが増えてほしい。私も、相手の気持ちや家族関係までしっかりと受けとめられる大人になりたい。

【正確な知識と冷静な判断力】

今なお残る部落差別の問題へ対処するため、2016年に「部落差別解消推進法」が施行されています。現代では、特にインターネット上で差別や偏見が拡散していることが大きな問題になっています（裁判になっているものもあります）。インターネット上でもやはり、「正確な知識」と「冷静な判断力」が必要です。情報社会に生きる皆さんです。どうか惑わされずに、差別を断ち切ることが出来る人であってください。

また、結婚差別は、「差別に屈してしまったときに成立してしまう」とも言われます。「好きになるのは、土地でも家柄でもなく“人柄”」。万が一、結婚差別に直面するようなことがあれば、学年主任の先生のこの言葉を思い出して下さいね。

「気づくことから！」《3年生 人権に関する講話》

●2月3日（木）には、「おおだふれあい会館」館長 石橋義正 先生にご来校いただき、卒業を目前にした皆さんにご講話いただきました。感想を紹介します。



感想より

- ☞ 人による考え方や伝え方の違いで、理解することが変わっていくことがわかった。伝えるときに相手が理解できるように、考えて伝えるようにはしているけど、これから社会に出たときこそ、伝わるように伝え方を変えていきたいなど思った。自分も違う考えをしていたり、周りも違う考えをしていたりすることが多くてびっくりしました。何かあったら相手をせめずに、自分の気持ちをみつめて行動や伝え方を工夫したりして、相手の気持ちにもよりそえる人になりたいと思った。
- ☞ 何に対しても無関心であることは、自分だけでなく、他の人から見ても寂しいように思いました。自分でも他の人からでも関心をもってもらえた方がうれしいなど感じました。人によって考え方などが違い、それぞれの好みがあるのはあたりまえだから、相手の考え方、好みなどを受け入れ、相手の人はそう考えていると思うことがとても大切なのだと思いました。周りや言葉のなかから何か違う・おかしいと気づくことから相手を思いやることにつながるのだとあらためて考えることができました。日頃の気づきをもっと出来るように、心掛けていきたいと思いました。
- ☞ 自分や相手をほめることは大事だということが分かりました。それぞれ考え方がちがうことは、色々な個性があっていいことだと思い、自分の考え方を一方的に押しつけず、相手の考え方もきいて、こんな考え方もあるんだというように考えていきたいと思いました。日頃の「ひとこと」で「ありがとう」「おはよう」「わかりません」とあたり前に言えそうでなかなか言えない時もあるので、意識しながら日頃の「ひとこと」を積み重ねていきたいです。
- ☞ 今日の講話を聞いて、昔ながらの固定観念から生まれる偏見や差別を無くしていくには、一人一人の「心のもさし」を長くする必要があるので、かたよった考えだけを聞くだけでなく、広い視野で物事を見る大切さが分かりました。

●講話の最後に、「人は強くない、人は弱いもの。弱いからこそ、手を取り合って助け合って生きることが必要」。そして、「人に教えてもらうこと、助けてもらうことができる人になってほしい」と石橋先生に言われましたね。

社会に出ると、社会の厳しさに直面し、まるで「強く生きること」を求められるように思えてしまいますが、反面、あたたかな人とのあたたかな出逢いがたくさん待っています。自分を大切にして、新たな世界を楽しんで下さい。皆さんの幸せを、心からお祈りしています！



(*この便りは持ち帰り、家庭で「人権」について語り合うきっかけにしてください。人権教育推進スタッフ：森脇)